

地方の、地方による、地方のための





病院に隣接し 「病気をなおしながら学習ができる」 特別支援学校の最新施設

平成25年(2013年)4月、香川県立善通寺養護学校の子ども達は、ピカピカの新しい校舎で新学期を迎えました。病院に隣接し、全国的にも評価の高い「医教連携」体制が確立されている善通寺養護学校の、新校舎への移転と完成は、病気のある子ども達とその家族にとって、待ちに待ったものでした。





病院に隣接される 特別支援学校の重要性

川県立善通寺養護学校は昭和49年(1974年)、国立療養所香川小児病院に隣接されるかたちで開校しました。

「当時は喘息で入院している子が多く、彼らに教育の機会を保障する目的から、市内の小中学校の分校として昭和44年(1969年)に始められたのです。その後の医療の進歩で、喘息はそれほど深刻な病気ではなくなりましたが、現在は精神疾患も含み、病弱な子ども達のための学校は必要であり、重要な役目を果たしています」(田中喜造校長)



養護学校(特別 支援学校)が受け入 れる生徒の実情は 時代や社会の状況 によって、常に変ましていきます。まで 在籍数も一定では



ないことから、その都度改修を行なってきましたが、善通 寺養護学校の旧校舎は不便を感じるようになっていたそう です。

そのような中、隣接している香川小児病院が国立善通寺病院と統合・移転することになり、善通寺養護学校は、統合される病院の隣地に新たな校舎を建設することになったのです。

一人一人の児童生徒に 安全で楽しい教育環境を

立 しい校舎の建設にあたり、教職員が考えたことは主に2つあります。

「一つ目は、いうまでもなく、さまざまな病状や障害を抱えた 児童生徒達全員が学習しやすい教育環境を実現することで す。そしてもう一つ、安全安心な学校であることです。」(穴吹 弘子教頭)

このような学校の設計が難しいのは児童生徒の病状がそれぞれ異なるからです。善通寺養護学校は平成4年に高等部が新設され、現在、小学1年生から高校3年生までの124名が在籍しています。各学部は病状や障害の程度に応じた3つのグループに分かれているものの、同じグループのなかでも教育や生活支援の方法は一人一人違うのです。

「食事が口から摂れない経管栄養の子や、定期的に痰の吸引が必要な子など、専門的な医療的ケアを要する児童生徒には、学校看護師が対応しています。さらに病床から離れられない子の場合には教職員が病室まで訪れ、ベッドサイドで教育を行うのです。また、心身症の児童生徒を落ち着かせ、相談でき

る教育相談室(ほっとルーム)もあります」(穴吹教頭)

そんな個別の対応が必要な子ども達が、楽しく、安全に勉強できるように、新校舎にはさま



ざまな工夫がされています。

「廊下は車椅子を置いてもストレッチャーが2台すれ違える ほど広くしてありますし、エレベーターも大型です。また緊急 避難用のスロープを校舎の中央部分に設置してあるほか、停 電しても医療機器等を動かせるように自家発電設備を用意し ました」(穴吹教頭)

そして何よりも、病院と隣接しているという点が子ども達の 教育と生活に大きく役立っています。

「教師に医師と看護師を加えた三者で、毎月、定例会を行い、情報や意見を交換していますので、生徒の治療状況に合わせた適切な指導ができます。修学旅行などの行事に医師と看護師が同行してくれるのも、この学校の大きな特色でしょう」(田中校長)

もちろん保護者会も定期的に開かれ、学校と病院、そして家庭がスクラムを組んで子ども達を育てていくのです。教師の一人がこんなことを話してくれました。

「この学校ではさまざまな特性のある子どもが一緒に学校生活を送るなかで、児童生徒達は生きる力を身に付けていきますし、他の人にもやさしく接するようになります。そういう教育の成果こそが、私達にとって一番の誇りなのです」





● 香川県善通寺市情報コーナー ●

善通寺市は、香川県の中西部に位置し、霊峰五岳山の麓で豊饒な土地に恵まれています。弘法大師や智証大師ご誕生の地にふさわしく、四国八十八ケ所霊場第72番から第76番まで5つの四国霊場札所が点在しています。



